

数年前に「世界に一つだけの花」という歌が大流行した。

♪ 花屋の店先に並んだ いろんな花を見ていた
ひとそれぞれ好みはあるけれど どれもみなきれいだね
そうさ僕らは世界に一つだけの花 一人一人違う種を持つ
その花を咲かせることだけに 一生懸命になればいい
小さな花や大きな花 一つとして同じものはないから
NO.1にならなくてもいい もともと特別な Only one ♪

何て良い歌詞だろう。花を咲かせることだけを考えて生きていけばよい。この曲が後世に残したいランキングで一位になったことをテレビで見たなあと思出した。

世の中には様々な障害を持った人たちが生活している。皆で椅子取りゲームをして優劣を競うのではなく、ハンディのある人も住み慣れた街で自分らしく生活できるように、だれでも座れる椅子を社会の中に創り出していきやさしさが必要なのだと思う。一日も早くやさしい人たちであふれる四街道にしたいものである。

副理事長 百瀬久雄

特定非営利活動法人希望 平成22年度定例総会

平成22年度NPO法人希望定例総会が、5月29日(土)午前10時より四街道市南部総合福祉センターわろうべの里多目的ホールで開催されました。

司会の渡辺皓寛理事が開会宣言し、福間眞樹理事長の開会の挨拶後、総社員数49名のうち本日出席した社員数48名(内訳 本人出席27名)で出席社員総数は定款定数を満たしたので総会が成立したことが報告されました。

引き続き議長に小林征司理事、書記に百瀬久雄理事、議事録署名人に前波喜代子理事、渡辺皓寛理事の2人が満場一致で選任され、議長挨拶の後議事審議に入りました。

各議案について担当理事及び監事より説明がなされ、審議を行った結果、21年度事業報告、収支決算書、貸借対照表、財産目録、監査報告および22年度事業計画、収支予算案は満場一致で可決されました。

理事は全員の重任が提案され、満場一致で承認されました。

また、どんぐり工房運営委員、どんぐり工房利用契約書および重要事項説明書変更についても異議なく可決されました。

審議終了のあと嶋田恵子副理事長の閉会の挨拶があり、総会は終了しました。

総会終了後茶話会に移り、13時まで懇談が続きました。

平成22年度の会費を未納の方はよろしくお願ひします。賛助会員の方もご協力下さい。

振込先：京葉銀行 四街道支店 普通 7864021 NPO法人希望 理事 田中英子

希望活動状況

HP作成 <http://kibou-donguri.org/index.html>

ホームページを立ち上げました。「地域活動支援センターどんぐり工房」でご覧になれます。

講演会開催 5月8日(土) 10:00~12:00 わろうべの里

演題 「こころの病について知ろう～統合失調症ってなあに～」 講師： 土屋 徹氏

主催：特定非営利活動法人希望

この頁下の「講演会の報告」をご覧ください。また、地域新聞 四街道版 5月28日号にも講演会のようすが掲載され、その記事をご覧くださいになった方の見学がありました。

平成22年度千葉県精神障害者作業所連絡協議会総会 5月25日(火)

田中施設長出席 名称が千葉県精神障がい者地域活動支援事業所協議会に変更された

理事会

定例 3月4日(木) 出席者 8名 HPについて 講演会について 総会について 他

定例 4月1日(木) 出席者 7名 講演会 総会 HP どんぐり工房運営 他

定例 5月6日(木) 出席者 7名 H22年度定例総会 希望運営 どんぐり工房運営 他

定例 6月3日(木) 出席者 8名 講演会反省 総会反省 ポスター掲示場所の件 他

どんぐり工房活動状況

利用状況

4月、5月と利用者の低迷が続いています。5月は特に開所日数が少ないこともあり、利用者数が少ない状況でした。しかし、5月は見学者も多く今後の利用者増につながることを期待されます。

講演会の報告

5月8日(土) 10時から“わろうべの里”で、講演会「こころの病について知ろう」がNPO法人希望の主催で開かれました。一般市民の方々に統合失調症のことを知ってもらい理解を深めていただきたいとの願いが通じて、用意した100席がほぼ満席となる盛況でした。

講師のソーシャルワーカー土屋徹さんは、どんぐり工房にとってはすでにおなじみの方で以前SSTの指導をしてくださいましたが、今日は病気の基本的な説明から始まり対応のしかたなどにもお話が及びました。

その中で心に残ったのは、『精神の病はこころの病ではなくからだの病気(脳の病気)なのである。治るかどうかではなく、自分らしく生きられることを目標とする』と言われたことでした。この病気の症状は一人ひとり違っているので、この自分らしくと言うのはとても大切なことだと思いました。

そして又、『地域で生活するための三種の神器は“医療・居場所・役割”』とおっしゃいました。これもまた重要なことで、本人の出来る事を周りの人々がみつめてあげ、自分でもそれに気づいてそれなりの努力ができるように応援してあげられたらいいなと思われました。

『治療が目的のような生活にならないように、生きることの一部に治療があるのです』と語られたことも心に残りました。

講演後の質疑応答にも丁寧にお答えいただき、予定された2時間はあっという間にすぎました。

理事 前波喜代子

編集後記： どんぐり工房の利用者が減っているのが気になります。希望の事業を安定化させるためには、利用者の実利用者数があるレベルで維持する必要があります。“インターネットで調べた”といった見学者や問い合わせは増えてきております。(KN)